

4 児童の「できた!」「分かった!」の質を高める学習過程の一場面 (3/6時)

教師と児童のやり取りの詳細

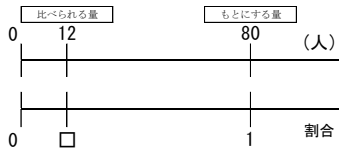
見通す段階において、小数で表された割合を整数で表すことにつなげていく場面。

あおいさんの学校の5年生の人数は80人で、サッカークラブに入っている人は12人です。5年生の人数をもとにした、サッカークラブの人数の割合を求めましょう。

5年生の人数を基にしたサッカークラブの人数の割合は何になりますか?

0.15 になります。

どのような計算をしましたか?



割合は、「比べられる量÷基にする量」で求めることができます。基にする量は5年生の人数の80人。比べられる量はサッカークラブの人数の12人だから、 $12 \div 80$ の計算をしました。

なるほど。割合は、「比べられる量÷基にする量」で求めることができましたね。割合の0.15は、数直線のどこですか?

□の所です。

□の所が0.15になるのですよね。では、0.15は何を表していますか?数直線を使って説明しましょう。

(数直線を指しながら)0.15は、5年生の人数の80人を1と見たときに、サッカークラブの人数の12人が0.15に当たります。

えっ、ちょっと待て。今の説明はどういう意味かな。

えっ、12人が0.15なの?

何だか分かりにくいな。分かりやすくできないのかな。

そうですね。(数直線を指し示しながら)5年生の人数の80人を1と見たときに、サッカークラブの人数の12人が0.15に当たりますが、何だか難しいですね。

割合は、小数で表され、大きさやその意味を捉えることが難しいです。みなさんは、小数より、どのように表されていると分かりやすいですか?

整数です。

そうですね。では、今日は、割合を整数で表す方法を学習していきましょう。

- ・この後は、教科書を使って「百分率」について確認をします。その際に、「割合の1を百分率で表すと100%になる」「割合の0.01を百分率で表すと1%になる」「割合の0.15を百分率で表すと15%になる」など、数直線を用いて、基準量を1と見た割合と基準量を100と見た割合である百分率を対応させながら、百分率についての理解を図るようにします。また、教科書に書かれている言葉を児童自身がしっかりと理解できるように言葉だけの説明にならないようにすることが大切です。
- ・確認した後は、百分率を使った問題を解くことで理解を図るだけでなく、技能の習得も図るようにします。